

地域リハビリテーション広域支援センターヒアリング調査結果

資料5

機能・役割等		千葉	東葛南部	東葛北部	印旛	香取海匠
項目	内容等	千葉中央メディカルセンター	新八千代病院	旭神経内科リハビリテーション病院	成田赤十字病院	旭中央病院
1	連絡協議会 (詳細は別紙)	開催の有無 有	有	有	有	有
2	リハ資源調査・情報収集等	資源調査の実施 無	無	無	有	有
	情報収集の方法	—	—	—	関係機関へのアンケート調査の実施	医療機関へのアンケート
	情報内容	—	—	—	専門職の配置、リハの対応・受入状況等	・圏域のリハビリ資源 ・リハビリ情報マップ(障害者利用可能施設等)
	情報の提供方法	—	—	—	検討中	ホームページ
	問題点・課題等	・利用者、家族を対象とした研修会等はなく情報収集できない ・マンパワー不足	・行政の医療圏とリハの受診エリアが異なる ・情報の入手先が不明 ・圏域が広く対象が多い	・情報を習得するための行政の窓口が不明 ・行政内部で課をまたぐ情報伝達がうまくいかない	・回収率の向上 ・情報の集計方法や提供方法の検討	情報の取りまとめに時間を要するため毎年更新が困難(更新:5年を予定)
3	圏域の課題分析	地区診断の実施 無	無	無	無	無
	実施方法	—	—	—	—	—
	問題点・課題	マンパワー不足で地区診断まで実施する余裕がない	・行政の医療圏とリハの受診エリアが異なる ・情報の入手先が不明 ・圏域が広く資源に格差有	・マンパワー不足 ・必要なデータや地区診断のためのツールがない	・圏域内のリハビリ資源の不足 ・課題抽出のため、協議会等でのアプローチについて要検討	地区診断には行政が保有する情報が必要となるため、行政との連携が必要
4	関係機関への技術的援助	実施の有無 無	有	有	無	有
	関係機関からの協力依頼	無	有	有	無	有
	事業実施効果	—	・協力医療機関と関係施設との連携強化 ・講師を派遣した施設からの情報提供により他施設へ事業の普及がされた	・アンケートによる反応は良好 ・研修会の実施により関係機関へ介護予防の必要性が周知された	—	研修会終了時にアンケート調査を実施。一定の知識の普及や実践方法、連携等に効果を上げている。
	問題点・課題	圏域内における地域リハ広域支援センターの認知度が低い	経費の不足、対象機関の多さ	・研修内容の伝達不足の懸念 ・地域全体への拡大方法	リハビリ専門職が少数のためリハに特化した対応については、院内の協力体制の構築が必要	マンパワー、経費の不足
5	研修会・講演会の開催	開催の有無 有	有	有	有	有
	内容の決定方法	広域支援センターで策定(アンケート調査等により内容を検討)	連絡協議会で協議の上、決定	広域支援センターで策定	・広域支援センターで策定 ・他機関からの講師派遣依頼	・広域支援センターで策定 ・行政機関からの依頼
	事業実施効果	上記方法で内容を決定するので、関係機関のニーズに合った研修会を開催できる	・アンケート実施結果は好評 ・関係機関(地域包括)との連携構築	研修後のアンケートによる反応は良好であり、関係機関へ研修内容の周知が行われている	関係機関等へのアンケート調査に基づき研修会の策定をすることで地域の連携体制構築に繋がっている。	リハビリ従事者への研修会開催により地域の支援病院との連携強化につながった
	問題点・課題	・広報、周知活動が困難(集客が難しい) ・マンパワー、経費の不足	マンパワー、経費の不足	・実技研修の希望が多くても定員増加が困難 ・市町村によって参加率に偏りがある ・要望があってもマンパワー的に開催の増加が困難	圏域内の関係機関へ事業普及するための院内体制の構築が必要	地域により協力体制の偏りがあるため、地域の実情に応じて各機関の機能・役割が異なる
6	福祉用具・住宅改修等相談支援	相談の有無 無	有	無	無	無
	事業実施効果	—	相談内容を地域包括支援センター等へ繋ぐことで相互理解が図られている	—	—	—
	問題点・課題	患者以外の住民等の対応は困難なため、相談があった場合には最終的に主治医への確認を促す	連携が作られていない市町村に対しては対応に苦慮している(電話相談等では把握が困難)	・相談については病院が受諾している地域包括支援センターで対応 ・関係機関のリーダーやボランティアの育成が必要	・該当事項について対応可能な職員がいない ・認定ナースの活用等、院内の連携体制による対応の検討	・HPに相談フォームはあるが、患者以外からの相談はなし ・広域センターの事業の必要性について要検討
リハビリ専門職と地域包括支援センターとの協働事業実施		可	可	可	実施方法について要検討(院内調整)	可
圏域の特徴		圏域内の医療機関で退院調整を行う事が可能	・圏域が広く、市・人口ともに多い ・市によって人口規模や行政サービスに差がある	・圏域内に都市部と郊外が存在 ・高齢者の居住する団地が多く、高齢化率が高い ・市によって事業展開に差がある	圏域内にリハビリ実施の専門機関が少ないため、地域リハビリ事業の定着が不十分と感じる	・圏域内の医療機関スタッフが運営に参加
工夫した業務・特に強化した業務		回復期リハ有志の会を立ち上げ、関係者の連携強化や資質向上を図っている	・研修事業を通じた顔の見える関係づくり ・段階的な研修による資質の向上 ・病院内の協力体制の強化	・協議会で市の取組事例を話してもらい、情報共有に繋がっている ・ボランティアの育成	関係機関への支援として、リハビリ技術の提供ではなく、リハビリ従事者に対し感染症対策の研修を実施	・分科会として「地域リハ支援班」と「訪問リハ支援班」を設置 ・高齢者や障害者の自発的な行動を促すため、地域のサークル活動「和希楽会」を実施
必要と思われる情報		・広報等に利用できるメーリングリスト ・医療、介護資源の情報 ・既存情報の更新	・リハ事業として実施すべき事業の範囲 ・行政(各市町村)の担当窓口	リハビリについての相談先 ・高次機能障害(サービス、対応方法) ・認知症(サービス、対応、地域連携)	圏域内の関係機関の課題	・各広域支援センターで実施した研修会等の講師・内容等 ・住民や県民のリハビリに関する要望
意見・要望等		・本事業の実施に行政(保健所等)に関わってもらい、事業の認知度を向上させてほしい	・県の公的な事業であることを示すパスのようなものが欲しい(地域での事業の理解) ・事業を定着させるために市町村と県の連携が必要	・行政(市)に対してリハ事業の必要性を定着させ、リハビリ事業の取組を活性化させることが必要 ・行政機関、広域支援センターともに横の連携(顔の見える関係)が必要	・急性期病院でリハビリ専門職が少ない状況でリハビリに特化した事業を立案することが困難な現状がある ・今後は当該センターである医療機関としての特色を生かした事業立案が必要	・構築した連携の強化のため地域のボランティア等マンパワーの確保が必要 ・圏域内の市町村の協力、県と市の協力体制の連携構築が必要

地域リハビリテーション広域支援センターヒアリング調査結果

機能・役割等		山武長生夷隅	安房	君津	市原	
項目	内容等	公立長生病院	亀田総合病院	君津中央病院	白金整形外科病院	
1	連絡協議会 (詳細は別紙)	開催の有無	有	有	有	実施センター数 9/9
2	リハ資源調査・情報収集等	資源調査の実施	有	無	有	実施センター数 5/9
	情報収集の方法	ちば医療ナビ、WAMネットによる情報収集	病院が保有する資源データで対応	圏域内の関係職種との情報交換	市のホームページ等から情報収集	○情報収集のための行政の担当窓口が不明、マンパワー不足等により実施困難なセンターが見受けられる。 ○連絡協議会や研修会等の開催により、圏域内の連携は構築されている。 ○要検討…必要な資源情報、収集方法、周知方法等の具体策等
	情報内容	圏域内の事業所数	圏域内のリハビリ資源	医療福祉施設のリハスタッフ在職の把握	リハ資源、人口構成、高齢化率等	
	情報の提供方法	協議会、関係機関からの照会に対し回答	必要があれば提供可	メーリングリストの運用を検討	ちき会(圏域内の連携の会)	
問題点・課題等	一般住民への還元方法	ケア分野の資源情報の充実		・最新情報の更新がなく情報源に苦慮 ・特定区域の人口構成等の情報源がない		
3	圏域の課題分析	地区診断の実施	無	有	有	実施センター数 2/9
	実施方法	—	—	協議会やアンケートによる意見収集	・ちき会での情報収集・市町村等の計画調査・個別相談からの課題抽出	○分析に必要な情報、分析方法、指標が不明瞭 ○圏域の医療機関が単独で行うのは困難であり、行政(保健所)のコントロールを要望する意見が多い
	問題点・課題	圏域が広くマンパワー的にも実施困難	地域活動からの課題抽出以上のものについては、一医療機関としては実施困難	・行政(保健所等)でのコントロールが必要 ・患者以外の住民の意見徴収は困難	・資料の取得や対応範囲の決定が困難 ・分析方法や指標が不明瞭	
4	関係機関への技術的援助	実施の有無	有	有	有	
	関係機関からの協力依頼	有	有	有	有	○経費・マンパワー不足は共通の課題 ○技術的支援の実施により、地域の関係機関との連携強化や事業の認知度の向上、相互理解に効果あり ○広域支援センターのみでは圏域内の要望をカバーしきれない現状もあり、講師の養成や他病院との協働が必要
	事業実施効果	関係機関が研修で習得した内容を業務に生かしている	広域支援センターから提案の講習内容の他、関係機関からのリクエストにも対応し現場のニーズにあった支援ができています。	関係機関の職員との情報交換や各業務内容・システムの相互理解に役立った	ちき会等で圏域の多職種の顔の見える関係が構築でき、事業の認知度も上昇	
問題点・課題	小規模事業所は研修会への参加が難しいため出張研修会を実施しているが、圏域が広くカバーしきれない	センター内のスタッフだけでなく、他の医療機関との協働や講師の養成による地域での事業定着が必要と考える。	打合せ等を病院業務外に行わなくてはならず、負担が大きい	同様の研修が地域で実施されていることが多く、取り上げるべきテーマの選定に苦慮		
5	研修会・講演会の開催	開催の有無	有	有	有	実施センター数 9/9
	内容の決定方法	その時のトピックスに合わせて実施	広域支援センターで策定した内容を連絡協議会に諮り決定	広域支援センター(計画の策定)・連絡協議会(講師派遣決定)・リハとケアを創る会(内容)	ちき会や協議会のグループワークの中で問題等を抽出し検討	○地域の関係機関からの依頼による研修もあり、研修会や講演会の開催が関係機関との連携強化事業の認知度の向上につながっている ○マンパワー、経費不足とを感じるセンターが多数 ○参加・協力市町村に偏りがあり、圏域内全体への普及が課題
	事業実施効果	アンケート等は実施していないため効果測定が困難	実施機関からリハに関する相談が来るなど連携強化に効果あり。	上記方法で計画等を決定することで、圏域内で研修会の実施が認知されている	上記方法で内容を決定するので、その時期のニーズに合った研修会を開催できる	
問題点・課題	参加者の集客に苦慮している	関係機関へのメリットがわかりづらいため、事業の浸透が難しい。	行政機関(市町村)への協力依頼等については行政(保健所等)に担ってほしい	行政的な課題か広域の課題か整理が必要だが、そのためのデータがなく地区別の細かな手当てができない		
6	福祉用具・住宅改修等相談支援	相談の有無	無	無	無	実施センター数 1/9
	事業実施効果	—	—	—	—	○地域の医療機関として、患者以外の住民からの相談については対応困難なセンター多数 ○対象を住民ではなく関係機関としての相談対応として要検討。
	問題点・課題	医師の指示がないアドバイスは困難なため、患者以外の住民等への対応は困難	地域包括支援センターからの相談は有り。今後は自立型ケアマネジメントに繋がるケア分野の充実が必要と考える。	・患者以外の住民への相談支援は困難 ・マンパワー不足	・広域の活動のみでは対応困難・個人情報の保護・リハ視点のみで解決可能か疑問	
リハビリ専門職と地域包括支援センターとの協働事業実施	可	可	可	可		
圏域の特徴		・医師会も4地区にまたがり、面積も広大 ・医療、介護資源が少ない ・小規模事業所が多い	超急性期病院の亀田総合病院と地域の病院が一体となり進める医療モデルが構築されている圏域	・医療過疎地域・職員数、病床数、人材の不足 ・訪問診療可能な診療所が少なく管轄地区が広く効率が悪い	・1市1保健所1医師会(圏域内で完結) ・医療資源、在宅・認知症サービス資源、交通手段が乏しい ・通所系介護サービス施設が多い	
工夫した業務・特に強化した業務		・出張研修会を取り入れている ・圏域が広い山武地区については他病院の協力を得ている	連絡協議会の開催を市町村で持ちまわることにより事業の周知・定着を図っている。	県内のリハスタッフの連携を目的にセラピストで構成される連絡協議会を立ち上げた	・行政機関との連携強化 ・多職種の「顔の見える」関係づくりの構築 ・マスコットキャラクターの作成	
必要と思われる情報		特になし	・圏域内のリハ従事者の把握 ・医療分野以外の資格保有者(柔道整復師、リハ関係の潜在資格保有者やボランティア等)情報	圏域内の関係機関におけるセラピストの在籍状況	・地域課題、資源情報 ・他圏域、他県での成功事例 ・行政(国・地域包括)との共有情報	
意見・要望等		関係機関からは出張研修会を増やしてほしいという要望があるが、圏域の広さ、マンパワー不足により対応が困難	・行政(保健所)に積極的に関わってほしい。 ・二次保健医療圏の中だけでは完結しない問題がある。	行政機関(市町村等)の協力が必要な会議等については行政(保健所)が主体となって関わってほしい。	・事業を実施するための情報が少ない ・広域支援センターを対象とした地域診断研修の開催を希望	

地域リハビリテーション広域支援センターヒアリング調査結果②(連絡協議会)

NO	地域リハビリテーション広域支援センター		構成員等													開催回数(H26)	協議内容	協議会開催の効果等	困難を感じる点				
	圏域	病院名	医師会	歯科医師会	薬剤師会	看護協会	訪問看護協議会	理学療法士会	作業療法士会	言語聴覚士会	介護支援専門員協議会	医療機関	ヘルパー協議会	市町村	地域包括支援センター					保健所	社会福祉協議会	その他	備考(その他組織等)
1	千葉	千葉中央メディカルセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 老人保健施設協議会 歯科衛生士会 身体障害者施設協議会 社会福祉事業団 	2回	<ul style="list-style-type: none"> 事業実績報告 事業計画の周知 情報の共有 意見交換 	<p>○圏域内で回復期病棟を持つ病院や関係機関の連携強化につながった。</p> <p>○協議会の他に「回復期リハビリテーション病棟の会」を設置し、現場レベルでの意見の集約を行っている。</p>	<p>広域支援センターの認知度が低く、職能団体より意見をもらうことに苦慮している。</p>
2	東葛南部	新八千代病院								○	○			○	○			<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所 職能団体・訪問看護ST等 <p>広域支援センターへ立候補のあった他医療機関を支援病院とし、支援病院のセラピスト、看護師、MSW等現場の医療従事者を構成員としている。</p>	1回	<ul style="list-style-type: none"> 活動報告 活動計画の策定 情報の共有 意見交換 	<p>議題に合わせ、老健協会や訪問リハ、訪問看護等様々な職能団体の会員でもある人材で協議会を構成しているため、双方の立場からの意見をもらうことができる。</p>	<p>○圏域が広く行政機関も多いため、連絡方法や周知方法に苦慮している。</p> <p>○自治体によって人口規模や行政サービスも様々であり、一律の課題抽出は困難</p> <p>○行政(市)の担当窓口が不明のため、関係部署の把握が困難</p>	
3	東葛北部	旭神経内科リハビリテーション病院												○	○	○		<p>圏域内の救急、回復期、精神科病院、地域包括支援センター、行政機関で構成。</p> <p>隣接する圏域外の市の参加もあり。</p>	2回	<ul style="list-style-type: none"> 課題協議 情報の共有 意見交換 	<p>○事前にアンケートを実施し、協議内容に反映させることで関係機関の支援・連携強化につながっている。</p> <p>○認知症リハビリ、各種連携シート(認知症・地域連携)の普及啓発に役立っている。</p>	<p>圏域が広く、行政機関が多岐にわたるため、行政ごとの連絡先や周知先に苦慮している。</p>	
4	印旛	成田赤十字病院	○											○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所 介護老人福祉施設 指定介護老人福祉支援津 	1回	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有 意見交換 	<p>圏域が広く市町村も多いため、講習会と同時開催とすることにより参加率の向上を図り、本事業の協力体制や連携体制の強化につながっている。</p> <p>また、圏域が広いため協議会で行う意見交換やアンケート調査により、地域の課題を抽出する役割を担っている。</p>	<p>協議会で課題抽出をするためには、各市や関係機関の意見を踏まえ検討することが望ましいが、圏域が広く参加できない機関もあるため、意見集約に苦慮している。</p>	
5	香取・海匝	旭中央病院												○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 介護老人保健施設 居宅介護支援事業所 障害者施設 <p>現場の声を反映できる構成に努めている</p>	1回	<ul style="list-style-type: none"> 課題協議 活動計画の策定 情報の共有 意見交換 	<p>○顔の見える関係からネットワークづくりの実践に繋げるため、名刺交換会を実施。</p> <p>○センターの分科会として「訪問リハ支援班」と「地域ネットワーク班」を設置し、町づくりの一端を担っている。</p>	<p>地域の課題抽出のための情報収集にあたり、行政の保有する情報を得るための窓口が不明確のため、やり取りに苦慮している。</p>	
6	山武・長生・夷隅	公立長生病院	○	○		○								○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設協会 老人保健施設協会 中核地域生活支援センター 	1回	<ul style="list-style-type: none"> 活動報告 活動計画の策定 情報の共有 	<p>圏域の面積が広く市町村数も多いため、研修会や講演会等で周知を行いながら、協議会でも関係機関に協力や助言を求めながら連携強化を図っている。</p>	<p>圏域内の行政機関も多く(17市町村3保健所)調整が困難な上、担当窓口もそれぞれの機関で異なるため苦慮している。</p>	
7	安房	亀田総合病院												○	○	○	○	<p>広く圏域内の意見を徴収するため、圏域内の関係機関(医療・介護・福祉)全てに通知し、参加希望者を募って実施。</p>	1回	<ul style="list-style-type: none"> 課題協議 活動計画の策定 情報の共有 意見交換 	<p>連絡協議会の実施を継続して行うことにより、関係機関の連携強化や事業の周知に繋がっている。</p>	<p>広く圏域内の意見徴収のため、関係機関全てに案内をし、参加者を募ることで、現場の声の共有や顔の見える関係づくりに効果がある反面、参加者が固定される傾向がある。</p>	
8	君津	君津中央病院	○							○	○			○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所 千葉医療福祉専門学校 <p>公開フォーラムの運営をするための助言や意見交換の場として協議会を設定。</p> <p>医療機関の構成員は回復期をもつ病院の職員</p>	2回	<ul style="list-style-type: none"> 課題協議 活動計画の策定 情報の共有 意見交換 	<p>○脳卒中連携パスや大腿骨頸部骨折連携パス等、退院支援を含めた意見交換ができ、退院支援が円滑に行える関係が構築されている。</p> <p>○フォーラムという目的を多職種の関係者で担う事で連携強化を図っている。</p>	<p>○市により人口規模や医療・介護資源に差があり、一律の課題抽出が困難</p> <p>○行政機関(市)への協議会参加依頼や情報取得が必要となるが、担当窓口が不明確なため苦慮している。</p>	
9	市原	白金整形外科病院				○								○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 老健・デイケア・訪問リハ・ケアマネ連絡会・中核地域生活支援センター <p>地域の実情を反映させるために、圏域内全ての医療機関、介護老人施設の職員を構成員としている</p>	2回	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有 意見交換 	<p>○顔の見える関係づくりのために、協議会と「ちきき会」を活用し、名刺交換会やグループワークを行う事で関係機関のネットワークを構築した。</p> <p>○事業を通じ地域の課題や解決方法等の共有ができるようになった。</p>	<p>圏域の市は市原市のみであるが、市内の対策が北部と南部で大きく異なり、医療資源にも差があるため、連携強化のための課題の抽出が困難</p>	